君とすっと、この家で。
SOKEN 創建

■株式会社創建 本社
〒541-0047 大阪府大阪市中央区淡路町3丁目5番13号 創建御堂筋ビル5階
■株式会社創建 東京支店
〒110-0005 東京都台東区上野5丁目15番14号 ONEST上野御徒町ビル4階

北海道の木と暮らす。
木の城 KINOSHIRO TAISETSU

■株式会社木の城たいせつ 本社　〒069-1502 夕張郡栗山町旭台1番地58
■株式会社木の城たいせつ 札幌支社　〒007-0848 札幌市東区北48条東19丁目2番地5
■株式会社木の城たいせつ 旭川支社　〒078-8343 旭川市東光3条7丁目3番地6

神社仏閣
再建プロジェクト

ごあいさつ

株式会社 創建 代表取締役会長 吉村孝文

神社仏閣再建プロジェクトは、北海道での石山神社建て替え計画がきっかけでございました。
立案当初、数々の難題があり、色々な方々から様々なご心配の言葉を受けながらも『木の城たいせつ』の社員達と苦難を乗り越える覚悟を決め、建て替え計画を進めてまいりました。そして完成した暁には心配していた神社関係者の方々も、涙を流して喜んでいただけました。
その後もこのような事業を行っていこうと思った一番大きな要因は、亡くなった妻の母親（当時93歳）に言われた言葉にありました。『吉村さんは人の住む家だけじゃなく、神様の家も作るんだね』。
この言葉が非常に私の胸に響きました。私も「そうだ。我々は神様の家を作らせてもらったんだ。こんなありがたいことはないじゃないか。』と気付かされました。
これを期に、毎年日本のどこかでお困りの神社のお手伝いさせていただきたいと思い、様々なご縁の中でご紹介いただいた白山姫神社（熊本県阿蘇郡）をお手伝いさせていただくこととなりました。
この事業をとおして、地元の皆様が心を癒やして頂ける場所を提供し続けていきたい。また携わった地域の皆様の繁栄をお祈りしております。

神社仏閣再建プロジェクトの意義とは

日本の宗教団体(宗教法人も含む)は神社・寺院・教会・布教所・その他に分類され、平成29年の宗教統計調査では神社が81,158社であるとされています。純粋に神道系の神社はこのうち81,067社となっています。
しかし文化庁の調査によるカテゴリーは自己申告によるものです。実際には神社であっても、神社として申告していない場合もあります。例えば出雲大社教は教えを広めることを目的に、宗教統計調査には教会として登録しています。更に宗教統計調査では宗教法人となっていない宗教施設はほとんどカウントされません。個人で保有する神社や企業内にあるお社、私邸にある邸内社などは計算に入らないのです。そのため実態としてはおよそ81,000社以上となっております。
これらの数多くの神社仏閣は、元々は地域の氏子様や檀家様によって建物の修繕などが行われておりました。また、その修繕にかかる経費などは、その地域ごとの皆様による寄進などによりまかなわれておりました。しかしながら、現在その多くの神社仏閣は、人口の減少、過疎化による地域経済の悪化、神社仏閣への信仰心の減少、寄付する選択肢の増加により、修繕出来ず、天災による被害に遭われた神社仏閣においては、再建不能となってしまっているものも多くあります。
そういった神社仏閣の現状に対し、弊社と致しましては、木の城たいせつの神社仏閣に適した特殊な機械加工技術「神社工法」を生かして、日本人の心の拠り所であり"神様の住む家"である神社仏閣を少しずつでも再建していく力になりたく、このプロジェクトを開始いたしました。
最初に再建のご協力をさせて頂きました、北海道札幌市南区に在る「石山神社」の建て替えに携わらせて頂きました際には、その地域の多くの人に喜んで頂けました。建て替え前は、殆どお参りに来る方はおらず、地域の子供達も寄り付かない場所でしたが、再建後には賑わいを取り戻し、多くの子供の遊び場として、地域の活性化に大きく寄与しておりました。
この再建前と再建後の変化、また、石山神社の武田宮司様のお考えに非常に共感させて頂きましたのが、プロジェクトを実現していく大きなきっかけとなっております。
このプロジェクトは弊社だけでは、遂行、実施する事は困難ですが、各地域の方々のご協力や、出雲大社様を中心とした神社庁の方々にご協力頂けることで一社一社再建が実現します。
今後も、各地域の方々、神社庁の方々、また、このプロジェクトに共感頂いた多くの方々、ご支援していただける方々と共に手を取り合っていきたいと思っております。

「被害被災神社再建・地域復興プロジェクト」第2弾始動！

東日本大震災時に約50人の命を救った福島県浪江町両竹鎮座「諏訪神社」を無償で建築、寄贈。

平成27年の石山神社社殿建替えを皮切りに始まった寺社仏閣の復興の思い。
出雲大社の千家宮司様を始め、多くの賛同をいただきました。
平成30年には「被害被災神社再建・地域復興プロジェクト」として、熊本震災で被害にあった白山姫神社を見事に再建いたしました。
そして、未曾有の大震災であった東日本大震災（2011年3月11日）で大きな被害にあった福島県浪江町、双葉町エリア。震災から8年が経過した今でも、再建が困難な状況です。
福島県双葉郡浪江町両竹（もろたけ）地区の標高25m程の高台に位置する諏訪神社が「被害被災神社再建・地域復興プロジェクト」の第2弾としてスタートします。
地域住民の崇敬の場であった諏訪神社。震度6強の激しい揺れや最大15.5mの大津波が押し寄せ、両竹地区は壊滅状態になりました。
諏訪神社は倒壊しましたが、高台にあるため、地域の方々約50人が避難をして、翌日救出されました。
諏訪神社を無償建築して、寄贈をする地域復興プロジェクトが、平成31年3月7日に東京赤坂にて、プロジェクト発表会が開催されました。発表会には、創建グループの吉村会長、出雲大社の千家宮司、福島県神社庁の丹治庁長、諏訪神社の木幡宮司が参加し、プロジェクトの意義、思いを話されました。
当日は、マスコミ関係者など約70人以上の方が出席。当プロジェクトへの関心の高さが伺えました。
建築は、同年6月頃から開始され、地域の方々のご協力も頂きながら、同年11月頃に完成する予定です。

第5回ジャパン・レジリエンス・アワード2019

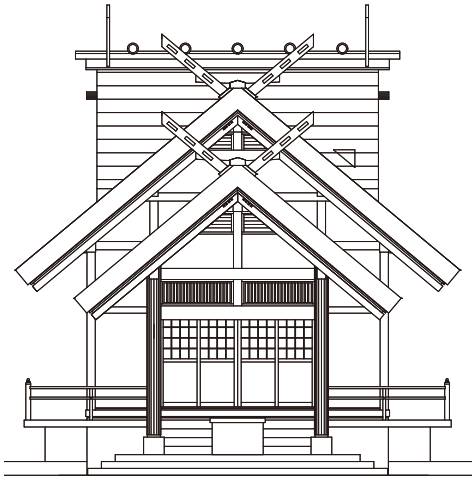
創建グループ 木の城たいせつ「災害被害神社の建て替え、寄贈による地域復興プロジェクト」の取り組みが準グランプリ「国土強靭化大臣賞」を受賞。

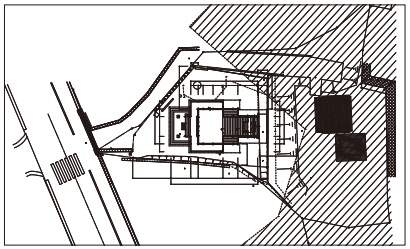
創建グループ　株式会社木の城たいせつが、「第5回ジャパン・レジリエンス・アワード2019」において、準グランプリの国土強靭化大臣賞を受賞いたしました。
からまつなど道産材を独自の乾燥方法である「コアドライ」で強度、耐久性を高めた建材を活用。金物を使わない伝統的な宮大工の技と高精度なプレカットの先進技術の導入で、低コストを実現。その技術を駆使し災害被害神社を無償で建築、寄贈により地域コミュニティの復興に役立てたいという願いが、国土強靭化の理念と合致した取り組みとして評価されました。

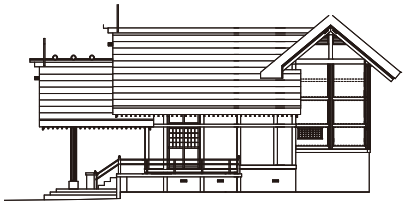
■ジャパン・レジリエンス・アワードとは
次世代に向けたレジリエンス社会構築へ向けて、強靭な国づくり、地域づくり、人づくり、産業づくりに資する活動、技術開発、製品開発等に取り組んでいる先進的な企業・団体を評価、表彰する制度です。平成31年3月15日に東京で第5回の表彰式が行われました。

卓越した技術

木の城たいせつの技術



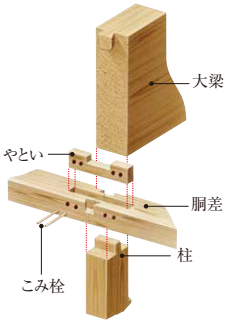




日本古来の匠の技術を駆使し、
本格「軸組構造」を現代の機械加工技術に置き換えた

神社工法

木の特性を生かし、木と木を組み合わせ気密性を高めた、
冬は暖かく、夏は涼しい住まいを実現。



あらゆる災害から家族を守る安心・安全住宅

災害列島の日本。高い三層基礎は、豪雨による水害や土砂崩れ、津波などから家族や財産を守ります。大雨や河川の氾濫による浸水を住居部分に寄せ付けません。また、独自の構造、構法により、風速６０メートルもの強風に耐えることができ、台風や竜巻などにも強さを発揮します。頑丈な基礎や伝統建築技術による「本格木造建築」が、自然災害から家族の命や財産をしっかりと守ります。

北海道南西沖地震でもびくともせず、津波被害からも家族を守った木の城たいせつの建物。

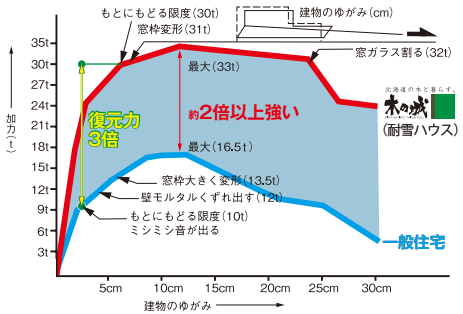
豪雨による水害でも浸水を寄せつけず、家族や財産を守った。

竜巻直後もしっかりと建つ。左側の納屋は全壊。

北海道胆振東部地震で木の城たいせつの建物を除き、多くの建物が倒壊、破損した。

木の城たいせつの技術

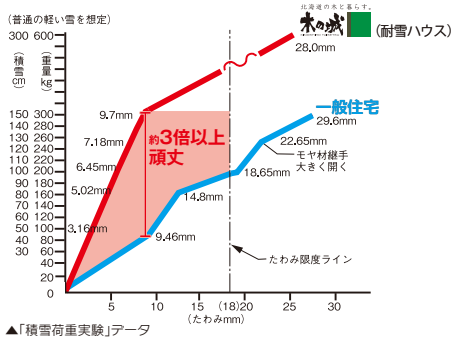
倒壊強度実験



▲「倒壊強度実験」データ

▲全体にワイヤーロープをかけ、大きな力を加えた「倒壊強度実験」

積雪荷重実験



▲「積雪荷重実験」データ

▲屋根全体に大きな荷重をかけていった「積雪荷重実験」

倒壊強度実験の結果、通常の2倍以上の強度がありました。また伝統木造建築の特徴である粘りの性能で、3倍の復元力が実現。
実験では倒れるまで揺らした結果、一般的な住宅では一気に倒壊しましたが、「木の城たいせつ」の家は、いつまでも完全な倒壊へ至らず「生存空間を残したまま」安心・安全を確保。2階に置いてあった家具もそのまま残ったようです。

石山神社

北海道札幌市南区石山254
平成27年8月31日　竣工

石山神社造営の経緯

石山神社の武田宮司は、宮司になられてから、石山神社が発足後130周年目にあたる2015年の記念事業として、石山神社社殿の建て替え計画を10年前の2005年より開始しました。しかしながら、日本経済や地域経済の鈍化により、地域の住民の皆様とともに支えてきた檀家様や氏子様からの寄進が集まらず、そんな中での、社殿建て替えの計画でありました。2014年に弊社木の城たいせつが相談を受けた際には、事業計画が4,000万円ですべての工事を完了するとのことでした。また相談を受けた際には、数社の神社の建て替え工事を請け負うことのできる建築業者と話しておりました。しかしながら、宮大工の建築集団で有名な金剛組をはじめ、設計会社、大手建築会社の内、数社しか見積もりを提示してもらえず、また、その後ご提示いただいた会社の提案内容も、神社の社殿としては成り立つようなものではなく、また、金額も成り立つことはありませんでした。そもそも、神社の一部の修復工事をすることでさえも、最低7,000万円以上（工事内容にもよりますが）するとのことですので、4,000万円で神社本殿の建て替えは、難しいと様々な方から武田宮司が言われておりました。また、今回の建て替え工事におきましては、伊勢神宮からのご用材を加工し、社殿に使用するということ、更に、建て替えの工期に関しましても、2月の節分行事後に工事を開始し、9月8日の秋季例大祭前に引き渡しということもありましたので、すべての条件において非常に至難を極めておりました。そういった中で、宮司様と弊社木の城たいせつとお打ち合わせをさせていただく中で、4,000万円という金額で、社殿40坪基礎高、天井高など、ご要望を出来る限り調整する中で、また、伊勢神宮より賜った64石の檜の再加工を行い、建て替え工事をすることとなりました。因みに、

A社 20坪 79,800,000円税抜（屋根-銅葺き、檜の再加工費別）
　　58,800,000円税抜（屋根-鉄板葺き、檜の再加工費別）
B社 20坪 42,000,000円税抜（屋根※上屋のみ-鉄板葺き、檜の再加工費別）
C社 20坪 49,680,000円税抜（屋根-鉄板葺き、檜の再加工費別）
D社 見積もり回答辞退
E社 見積もり回答辞退
木の城たいせつ 20坪 40,000,000円税込（檜の再加工費込）

また、4,000万円も一部武田宮司様の寄進により集まった金額の中で、工事がスタート致しました。建築当初は、本当に4,000万円でそのような神社社殿の建築ができるのかといった方も、多くいらっしゃいましたが、建築が進むにつれて、地域の住民の方をはじめとし、檀家様、氏子様、また、札幌中の神社の宮司様も応援していただけるようになり、無事8月31日に完成し、遷座祭、宵宮祭、例大祭を9月8日に執り行いました。最終的には、約5,600万円の寄進が集まりました。

石山神社 Construction

式年遷宮で解体されて
賜った檜（64石18㎥）

石山神社 After

石山神社 Greeting

宮司 武田敏昭氏 のおもい

石山神社は地域の神社であり、厳しい社会情勢の中で集めた募財を如何に有効に活用するか、将来に繋げていく使いみちが創れるかが私の使命と思っています。はじめは何も整備されていなかった石山神社を一つ一つ自ら率先して整備し、賛同する人たちの協力を得ながらここまでやってくることが出来ました。今回の130年記念事業もご協力頂いた皆様が自分たちの神社であるという気持ちのなかで、率先して働いて頂いたことに心より感謝するとともに、工事にご協力頂いた皆様に厚く感謝を申し上げます。特に、今回は異例とも言える伊勢神宮のご用材を頂くことができ、それをたいせつに補修し、社殿の見えるヵ所にふんだんに使って頂いたことは、補修の跡を見るたびにそのご苦労が感じられ、工事を見守ってきた地域の人たちにも自分たちの神社がたいせつに造られていることに喜びの笑顔がわきでてきて、ほんとうにありがたいと感謝しております。

発寒神社 社務所

北海道札幌市西区発寒11条3丁目1-33
平成30年9月15日　竣工

社務所建て替えの経緯

発寒神社の社務所は他の建築会社で建築を予定しておりました。しかしながら、特殊に建築された社務所となっており、その建築会社は建築することを断念してしまいました。その特殊な条件とは、文化遺産が埋まっている可能性のある土地であったため、通常の建築工事のようには建築することができなかったのです。
一般的な建築工事ではなく、また一般的な申請書類ではないため、全てが特殊な工事に合わせた書類申請、建築工事を行わなければならないのです。更に秋の例大祭までには完成していなくてはならないという工期の制限もありました。
そのような厳しい条件の中、木の城たいせつとしては、栗山にある本社工場の加工技術を駆使し、工期の短縮をすることにより、無事完成させることができました。

発寒神社 社務所 Construction

発寒神社 社務所 After

感謝状

白山姫神社　熊本県阿蘇郡西原村河原750
平成30年11月6日　竣工

白山姫神社再建の経緯

熊本地震は、2016年4月14日21時26分以降に熊本県と大分県で相次いで発生した地震。気象庁震度階級では最も大きい震度7を観測する地震が4月14日夜および4月16日未明に発生したほか、最大震度が6強の地震が2回、6弱の地震が3回発生している。
その地震による住家被害は、本県で、全壊8,651棟、半壊33,179棟、一部破損142,907棟に上り、全壊・半壊被害の7割以上が熊本市、宇城市、南阿蘇村、西原村、御船町及び益城町の6市町村で発生している。その他、6月中に発生した豪雨被害のうち、熊本地震との関連が認められた住家被害は、全壊14棟、半壊113棟、床上浸水147棟、床下浸水498棟、一部破損9棟に上っている。また宅地についても、地盤の亀裂や陥没、液状化等の被害が確認されている。
この被害を受けた建物の中で、勿論神社も大きな被害を受けました。

神社という場所は日本人の心の拠り所でもあり、正に被災をされた地域の方々にとって、その心の拠り所でもある神社が倒壊していたのでは・・・
そこで、木の城たいせつの神社仏閣のもつ特殊な機械加工技術を生かし、社殿を寄贈する事と致しました。
社殿は地域の多くの方々に身守られて、11月6日に寄贈式が行われました。
日本人の心の拠り所である神社が全国に8万数千件ある中で、今回被災された熊本県の西原村の白山姫神社だけではなく、まだまだ多くの神社が再建困難な状態にありますが、創建グループ、木の城たいせつとしては今後、毎年一棟の神社の社殿を全国に寄贈し、多くの地域の皆様に喜んでいただけるよう、また多くの皆様に長きにわたり、日本人の心の拠り所である神社を大事に保護・維持していけるように願います。

白山姫神社 Before

白山姫神社 Construction

白山姫神社 After

白山姫神社 Greeting

斎主宮司 緒方宏信氏

最初は夢のような話でどうなるのかと思っていましたが本当に見事な社殿が完成いたしました。本当にありがたく思っております。
はるばる北海道からエゾ松、カラ松、いろんな木材が九州に運ばれまして、
宮大工の技を特殊な機械加工技術を駆使して作っていただいたところでございます。
本日手にしている尺も、そのエゾ松を加工させていただきました。
完成した社殿は、ヒノキよりも白く、硬く、本当に美しい材料をもって建設していただき、本当に感動しております。
これからも神社の再生事業を続けて行かれるとのことでございますが、心より応援させていただきます。

感謝状

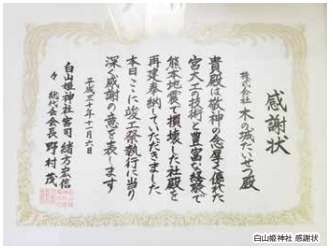
株式会社 木の城たいせつ
代表取締役社長 吉村孝文殿

貴殿は常に敬神崇祖の念篤く平成二十八年熊本地震の被災神社であるお熊本県西原村鎮座 白山姫神社の本殿 幣殿 拝殿の社殿の建築に誠心誠意取り組まれ卓越した技術を以て完遂されました事は誠に以て感謝に堪えません
ここに社殿竣工にあたりその功績をたたえ感謝の意を表します

平成三十年十一月六日

熊本県神社庁
庁長 宮崎國忠

熊本県神社庁 感謝状



感謝状

株式会社 木の城たいせつ殿

貴殿は敬神の念篤く優れた宮大工の技術と豊富な経験で熊本地震で損壊した社殿を再建奉納していただきました
本日ここに竣工祭執行に当り深く感謝の意を表します

平成三十年十二月六日

白山姫神社 宮司 緒方宏信
々 総代会会長 野村茂

白山姫神社 感謝状